

サクラガイ *Nitidotellina hokkaidoensis* (Habe)

【選定理由】

本種は内湾の潮間帯から潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾奥部から湾口部にかけての広い範囲で打ち上げられる貝としてごく普通で、また多産したが(愛知県科学教育センター, 1967)、現在では打ち上げられる海岸も激減し、明らかに生息場所、個体数とも減少している。近年でも三河湾湾口部の一部では健全な個体群が残っているが、そのような場所は少ない(木村, 1996; 木村, 2000)。



南知多町河和干潟, 1993年2月2日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 20 mm、殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平、殻質は薄く桃から桃白色。殻表は平滑で光沢がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、国内では北海道南部～九州に分布する(木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

木村昭一, 2012. サクラガイ, p. 126. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)